



昨日、本校で人権の研究会を開催し、2年1組と3年3組が授業を公開しました。昨年度まで旧5小
学校で勤務していた先生や幼稚園の先生方も参観してくださいました。懐かしい子どもたちの頑張りや
成長の様子に触れ、大変喜んでおられました。

今回は、その二つの授業の中から、小さいながらも大切な一場面を紹介します。

人権らしさがにじみ出た授業

◆2年「リレーきょうそう」の授業から

走るのが遅いてっちゃんのいるチームは、いつも
リレーに負けてばかり。みんなは、てっちゃんを仲
間外れにしていまいます。大泣きするてっちゃんを
横に、みんなはリレーを始めます――。

この場面で、自分ならどうするかを出し合いました。
たくさんの考えが出された後、ある子が、『「勝
つことよりも、てっちゃんを入れて“楽しい”こと
の方がいい』』と言ったAさんの考えがよい』と発言
しました。周りの子どもたちも「いいですね。」と
共感した時、Aさんが「ありがとうございます。」
とお礼の言葉を返しました。

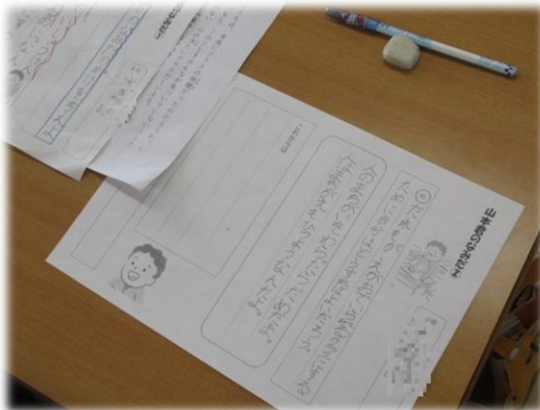
これまで、様々な授業で「いいです」という唱和を耳にしてきましたが、それに対して「ありがとう
ございます」と返す場面は初めてでした。さわやかなやりとりでした。



【ロールプレイの様子 ～2年生の授業～】

◆3年「山本君のなみだ」の授業から

授業中の間違いを笑われた山本君。それを田中君が「こんな問題、1年生でもできるやろうが。」と
笑います。まわりのみんなも笑い、「ぼく」も笑います。山本君の目からは涙がこぼれます――。



【“まちがえも必要” ～3年生の授業～】

「“ぼく”は、こんなクラスをどんなクラスだと言っ
ていたかな?」。教師の問いかけに、ページをめくる音が
一斉に響きます。「自分なら笑った人たちに何と言うか、
ワークシートに書いてごらん。」という声とともに、鉛
筆の音が教室に広がります。そんな静かな雰囲気の中で、
ある子が次のように書きました。

「人のまちがいをわらったらだめだよ。人にはまちがえ
もひつようなんだよ。」

ちょうどその子のそばにいた私は、そっと尋ねてみま
した。

「“まちがえもひつよう”って、どういうこと?」

その子も、そっと答えてくれました。

「“まちがえは成功のもと”だから。」

この言葉を記した子は、全体の場でこれを発表することはありませんでした。同じように、今日、発
表できなかった子どもたちの中にも、きっと深い思いが隠れていることでしょう。「大切なものは目に
みえないんだよ。」というサン＝テグジュペリの言葉を、ふと思い出しました。